

令和4年度地域ケア推進会議 について

令和4年7月14日
柏市地域包括支援課

本日説明する内容

1. 令和3年度地域ケア推進会議での提言から政策形成に関する取り組み(報告)
2. 令和4年度地域ケア推進会議
 - (1) 令和3年度地域ケア会議の実施状況(報告)
 - (2) 地域ケア会議の取り組み報告
(北柏地域包括支援センター)
 - (3) 政策形成に向けた課題整理
 - (4) ご助言をいただきたい事項

柏市における地域ケア会議の体系

個別課題
解決機能

ネットワーク構築
機能

地域づくり・資源
開発機能

政策形成
機能

【地域ケア個別会議】

- 地域包括支援センター主催
- 参加者：
本人, 家族, 介護支援専門員, 医療・介護の支援者, 民生委員, 支えあい推進員等地域関係者, その他関係機関
- 助言者：
医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護師, リハビリ職, 司法書士, 弁護士等

【介護予防個別会議】

- 市主催
- 要支援1・2等のケアプランの検証, 自立支援重度化防止
- 参加者：
担当ケアマネジャー, サービス提供事業者, 地域包括支援センター職員
- 助言者：
薬剤師, 歯科衛生士, リハビリ職, 管理栄養士等

地域課題の把握

【地域ケア推進圏域会議】

- 地域包括支援センター主催
- 参加者：
民生委員, 支えあい推進員等地域関係者, 介護関係者(ケアマネジャー, サービス事業者等) 医療関係者(医師, 看護師, リハビリ職等), その他関係機関(警察署, 消防局, 社会福祉協議会, 消費生活センター等必要に応じて)

【地域ケア推進会議】

※「地域包括支援センター運営協議会」に位置づけ

- 市主催
- 参加者：
運営協議会委員

計画策定等, 施策への反映

1. 令和3年度地域ケア推進会議での 提言から政策形成に関する取り組み (報告)

検討課題

- ひとり暮らしの認知症のかたをはじめとして、見守りが必要なかたの増加
- 地域における見守り体制が不十分

※令和3年度の課題抽出より

提言内容

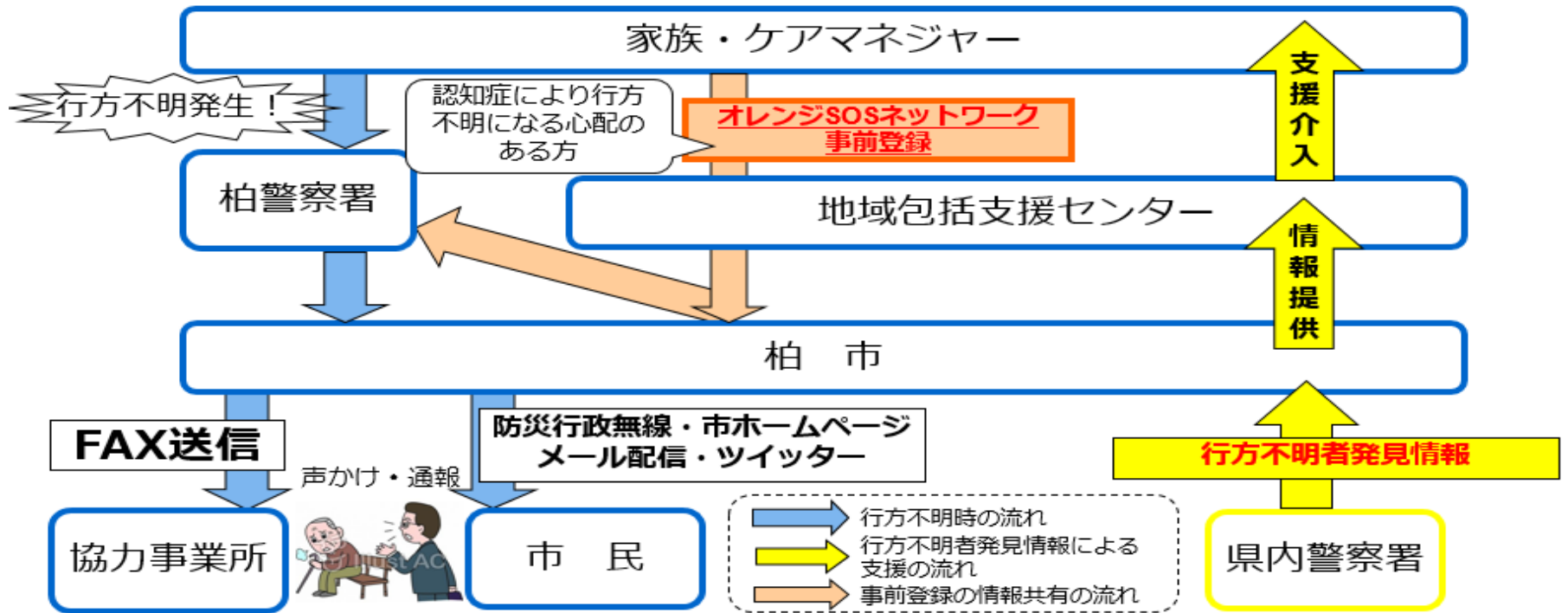
地域の見守り体制の構築の必要性について

検討の方向性

既存制度の活用により見守り体制の充実を行う

かしわオレンジSOSネットワークシステム

警察署や協定締結をした協力事業所等と連携し、認知症により行方不明になる可能性のある者の事前把握や、行方不明となった場合の早期発見、本人・家族の支援を行う



①かしわオレンジ` SOSネットワーク事前登録

◆令和4年3月31日現在の登録者 255名

②かしわオレンジ` SOSネットワーク協力事業所


◆協力事業所 124事業所（令和4年3月31日現在）

- ・介護保険施設・事業所 55施設（特養・ケアマネ事業所等）
- ・医療機関 17機関
- ・民間事業所 50事業所（バス・タクシー会社等）
- ・社会福祉協議会,消防局

③千葉県警からの支援対象者情報提供書

◆令和3年度 241件/年 （令和2年度 247件/年）

かしわオレンジSOSネットワーク事業

|  <small>kashiwani© KIC 2009</small> | 件数 | 発見件数 (死亡) | 未発見 件数 | 発見場所 | | |
|---|----|--------------|-----------|------|----|----|
| | | | | 市内 | 市外 | 帰宅 |
| R2年度 | 36 | 36 (0件) | 0 | 18 | 9 | 9 |
| R3年度 | 39 | 39 (0件) | 0 | 25 | 9 | 5 |

【特徴・取り組み】

- ① **要介護認定未申請者が最も多く、認定保持者の4割近くが要介護1**
一人で外出したり買物に行くことが可能、出先でのスムーズな身元確認が必要。
- ② **路上で不審に思った一般通行人が声をかけて警察に通報するパターン多**
認知症の方への声のかけ方や通報方法の啓発
★町会等での認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練の実施
- ③ **業務中職員（駅員、警備員など）が発見し身元確認や警察への通報協力**
協力事業所の拡大と認知症啓発（認知症サポーター養成講座）の実施

2. 令和4年度地域ケア推進会議

(1) 令和3年度地域ケア会議の実施状況 (報告)

令和3年度の実施状況

| | | 実施回数 | 検討事例数 | 延べ 参加者数 |
|----------|-------------------------------|------|-------|------------|
| 地域ケア個別会議 | 地域ケア個別会議 (主催：地域包括支援センター) | 36回 | 36件 | 298人 |
| | 介護予防個別会議 (主催：柏市) | 48回 | 47件 | 236人 |
| 地域ケア推進会議 | 地域ケア推進圏域会議 (主催：地域包括支援センター) | 11回 | - | 150人 |
| | 地域ケア推進会議 (主催：柏市) | 1回 | - | 25人 |

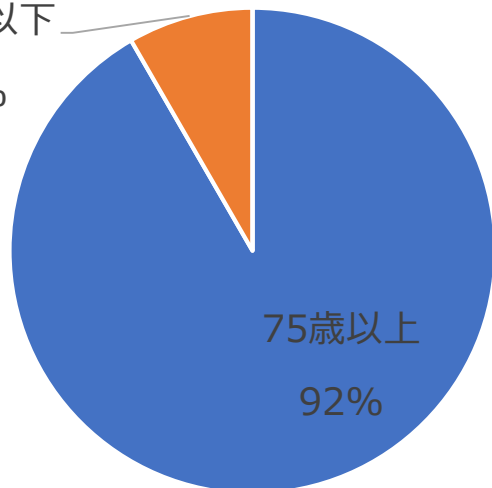
地域ケア個別会議の対象事例の状況(年齢・性別・介護度・世帯構成)

年齢

65歳以上

74歳以下

8%



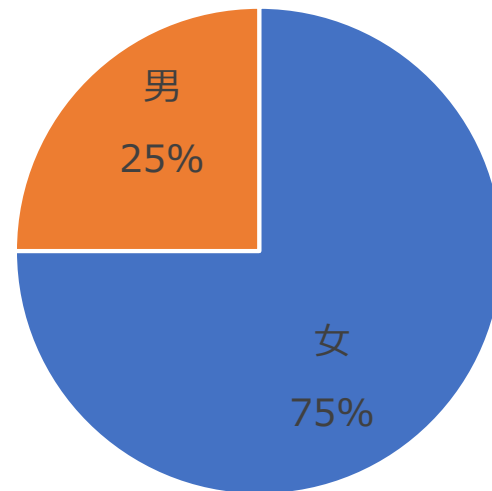
性別

男

25%

女

75%



介護度

非該当 要介護 3

要介護 4

要介護 2

3%

3%

3%

6%

要支援 2

8%

要支援 1

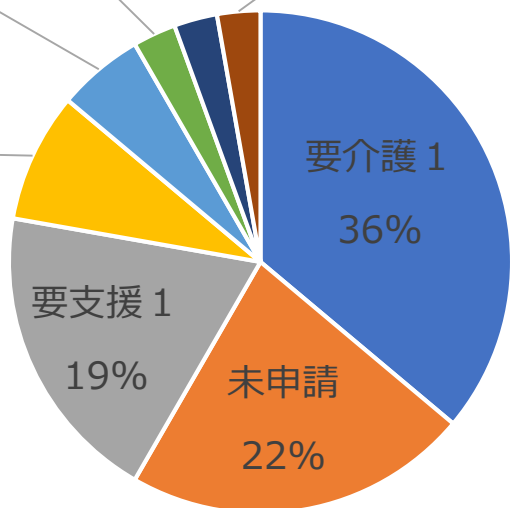
19%

未申請

22%

要介護 1

36%



世帯構成

その他の世帯

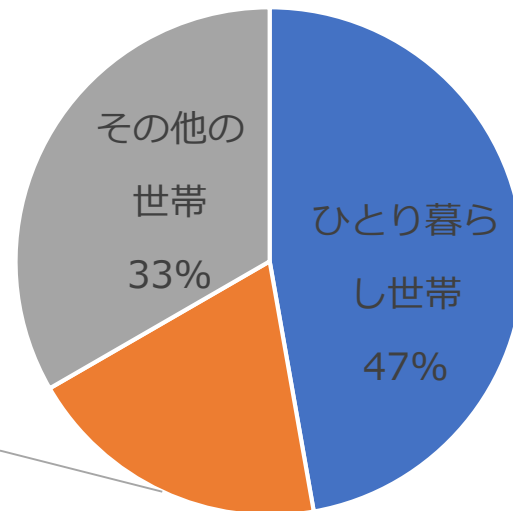
33%

ひとり暮らし世帯

47%

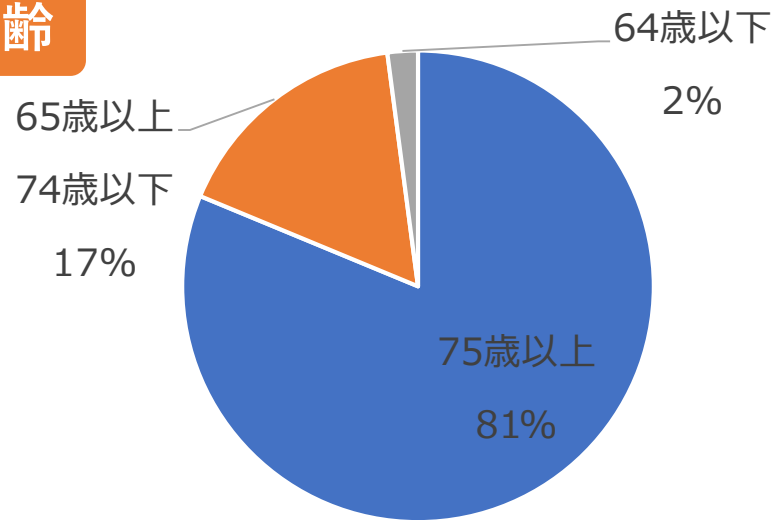
高齢者世帯

20%

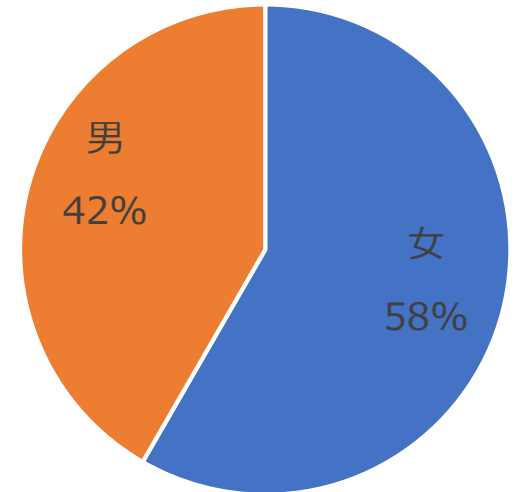


介護予防個別会議の対象事例の状況(年齢・性別・介護度・世帯構成)

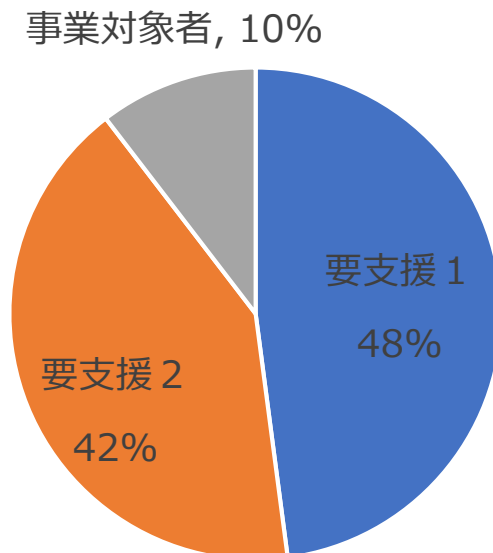
年齢



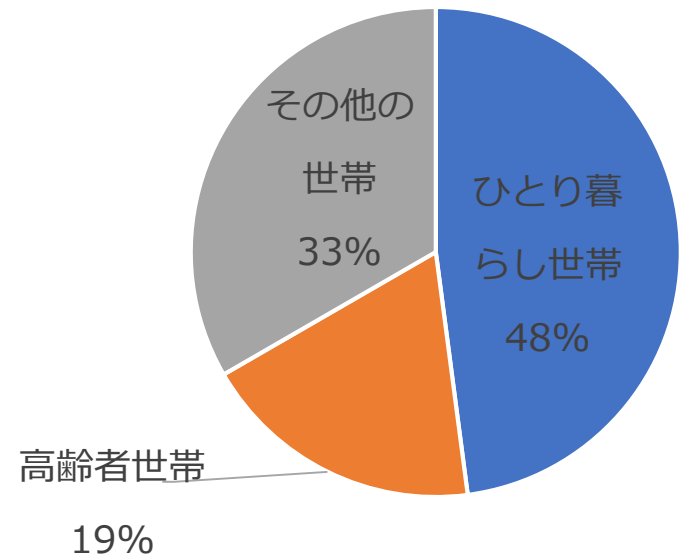
性別



介護度

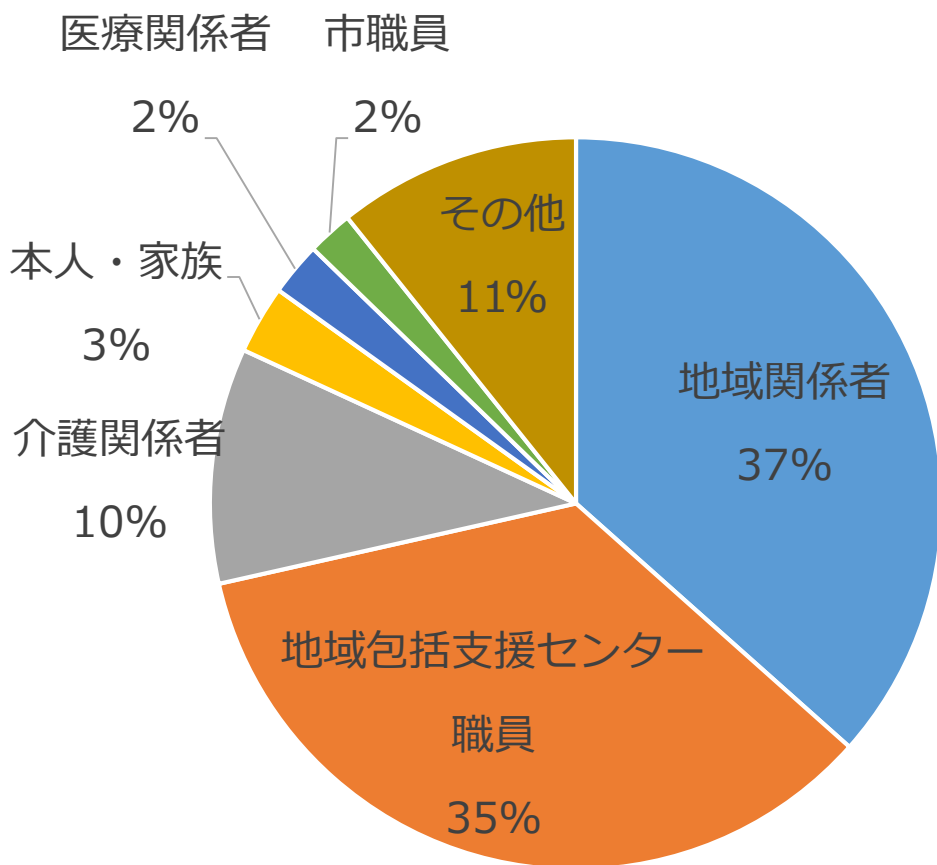


世帯構成

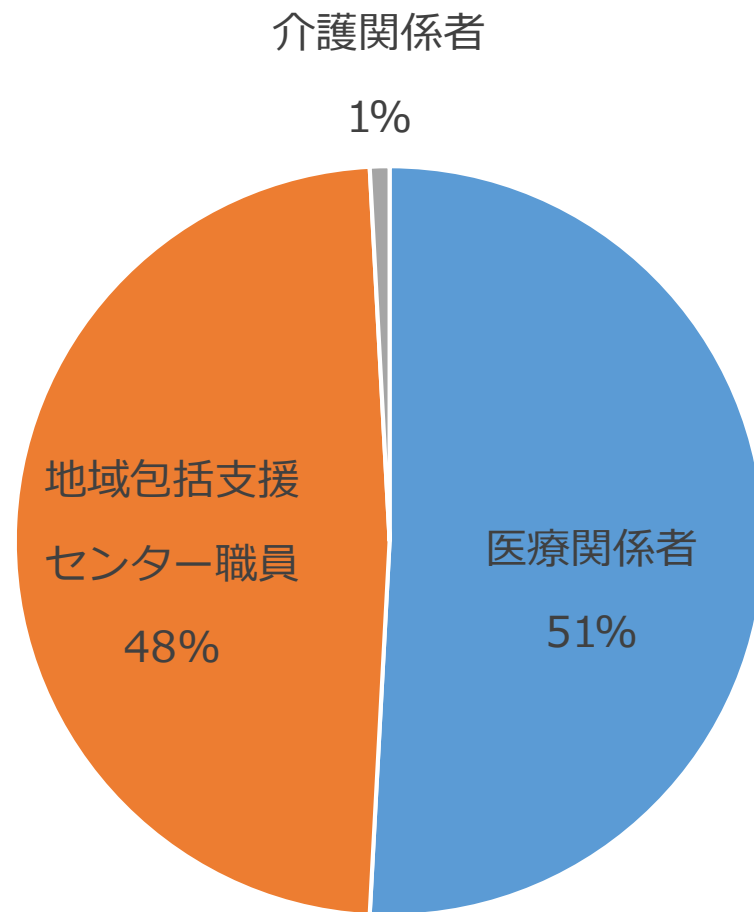


地域ケア個別会議・介護予防個別会議の参加者

地域ケア個別会議

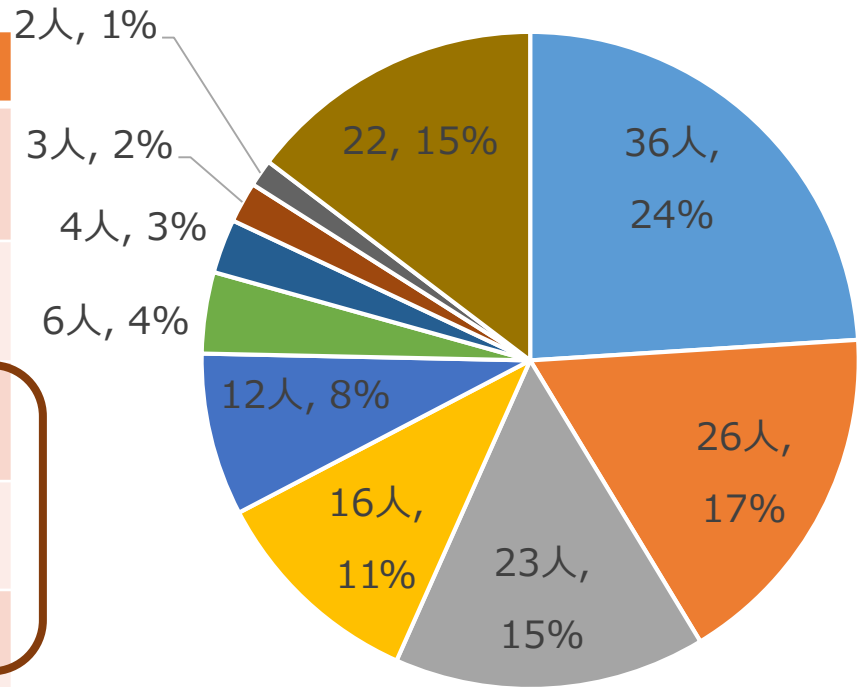


介護予防個別会議



地域ケア推進圏域会議の状況(テーマ・参加者)

| 包括 | テーマ |
|-------|---|
| 柏北部 | 認知症のかたが介護保険のサービス利用だけでなく、地域の社会資源を活用できる仕組みを作る |
| 柏北部第2 | 地域で孤立している認知症のかたを支えるサポート体制やネットワークの構築 |
| 北柏 | 住民同士が交流し、地域で認知症のリスクの低下に取り組もう |
| 北柏第2 | 地域で見守りあって安心して暮らせるたすけあいや居場所を考える |
| 柏西口 | 集うこと・個々の活動を増やしフレイル予防 |
| 柏西口第2 | つながって行こう |
| 柏東口 | 認知症当事者や介護者と地域住民が交流できる場をつくる |
| 柏東口第2 | 地域の高齢者の見守り促進 |
| 光ヶ丘 | — |
| 柏南部 | 見守り愛・お知り愛で明るい地域 |
| 柏南部第2 | 閉じこもりにならない地域にしよう |
| 沼南 | 徘徊高齢者でも安心して暮らせるまち |



- センター職員
- 自治会町会地域住民等
- ふるさと協議会・地区社協等
- 支えあい推進員・たすけあい団体等
- 民生委員
- 介護関係者
- 医療関係者
- 民間事業者
- 市職員
- その他

(2) 地域ケア会議の取り組み報告 (北柏地域包括支援センター)

閉じこもりがちな高齢者が、地域と交流することにより 地域から孤立しないための取り組み

- 令和2年度の相談キーワードは、「閉じこもり」が第2位で17%だった(第1位は「要介護認定申請」で37%だった)。
- 「認知症リスク者割合」が20地域中19位※1
- 北柏の圏域は、認知症リスクの高い人の割合が市内第2位だった。認知症リスクの高い人は、他者とのつながりや助け合いが少ないということが明らかになっている。※1



『閉じこもりがちの人が地域とのつながりが薄れている』



令和3年度の地域ケア会議推進事業のテーマ
「閉じこもりの人と地域をむすぶ」

第1回

視力低下で一人で外出
できない人がある

- **目標**：外出困難者に対して住民活動としてサポートできることを検討し、実践につなげる。
- **結果**：地域住民が外出困難者へのサポートに、技術的な不安や、事故発生などの不安を持っていることが明らかになった。

第2回

抑うつ状態で外出でき
ない人がある

- **目標**：地域住民が負担を感じない程度の支援を行い、当事者を地域活動につなげる。
- **結果**：ご近所同士でサロンに誘い合い一緒に行くことで、当事者が外出できるきっかけづくりになることを共有した。

第3回

ケガをきっかけに閉じこ
もりになり、治癒しても
外出できない人がある

- **目標**：閉じこもりに陥ってしまった人を再び地域につなげる。
- **結果**：居住するマンション内のサロン開催時、サロンのボランティアがインターフォンで声かけしたことで、閉じこもりの人と交流できた。ボランティアも大きな負担を感じることはなかった。

地域ケア推進圏域会議での検討内容

地域課題

- 地域には、閉じこもり高齢者が少なからずいる。
- 地域のボランティアは、新たな提案や試みには不安感や負担感があり、補償がないことも心配で一步を踏み出せない。

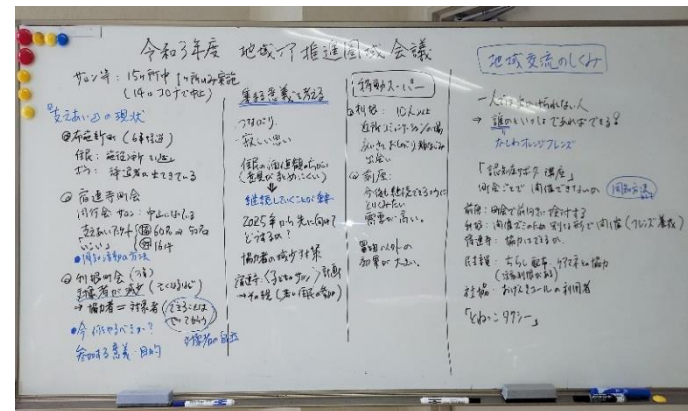
目標

- 地域に潜在的な閉じこもり高齢者が多くいても、住民同士の声かけをきっかけに、解消する人がいることを共有する。
- 地域包括支援センターがかしわオレンジフレンズ(※2)と協働で、閉じこもり高齢者の外出同行を行い実績をつくり、地域活動へ移行するイメージを共有する。

結果

- 「閉じこもり」が地域課題であることを共有できた。
- 町会ごとに、認知症サポーター養成講座を行うこと、かしわオレンジフレンズの募集チラシを町会内で周知することの同意が得られた。
- 講座受講者を対象に、かしわオレンジフレンズの登録を促すことの同意を得られた。

※ 2 かしわオレンジフレンズ：認知症サポーター養成講座を受講し、地域の認知症に関する活動にボランティアとして協力できる旨、地域包括支援センターに登録した市民



出席者

- 富勢地区ふるさと協議会会長 ・富勢地区民児協会会長 ・富勢地区支えあい推進員
- 利根町いきいきネット代表
- 前原町会会長 ・宿連寺町会会長 ・いこい宿連寺代表

成果

宿連寺町会で認知症サポーター養成講座を開催。かしわオレンジフレンドを増やすことができた。

課題

- 町会からは「閉じこもり高齢者はいない」との声が聞かれる。
- 地域では、閉じこもりがちな高齢者の対象者像が知られていない。
- 地域包括支援センターが、閉じこもりがちな高齢者と外出支援の担い手との橋渡しを行ったが、マッチングに至らなかった。

今後の方針

- 地域包括支援センターは、閉じこもりがちな高齢者の増加について、引き続き地域課題としてとらえ、住民に周知をはかる。
- 高齢者の見守りや、声かけを行う民生児童委員等の協力も得ながら、閉じこもりがちな高齢者の対象者像を、地域住民と共有する。

身近にこのような方、見かけませんか？

1. 外出先で

- ①店で小銭が払えない
- ②持ち合わせ時間を間違える
- ③道順を何度説明しても目的地にたどりつかない

2. 日常生活で

- ①ゴミの出し方がいつも間違っている
- ②自宅の中が片付いていない



3. 本人の変化

- ①季節に合った服装でない
- ②歩き方が危ない
- ③散歩に行く回数が極端に増えた

4. 自宅の様子

- ①夜になっても電気がついていない
- ②洗濯物が数日間同じ物が干されている

(3)政策形成に向けた課題整理

身体的要因

- ▶ 老化による体力低下
- ▶ 疾病
- ▶ 障害



心理的要因

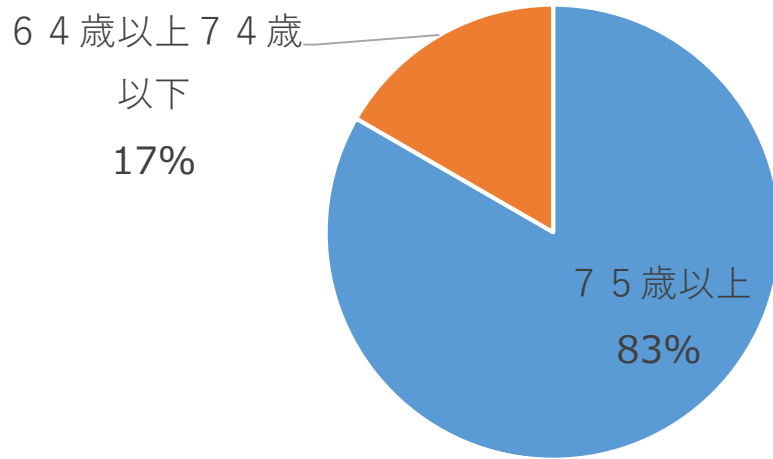
- ▶ 活動意欲の低下
- ▶ 障害受容・性格

社会・環境要因

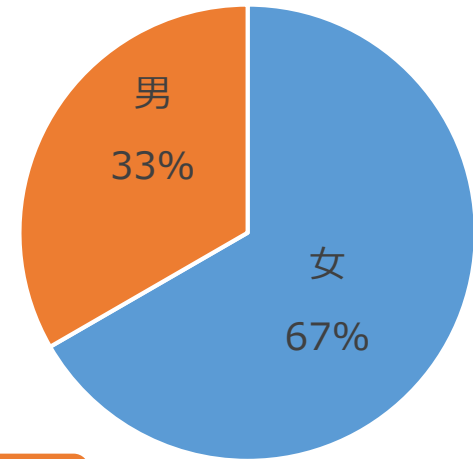
- ▶ 人的環境: 家族の態度・接し方, 友人・仲間
- ▶ 物理的環境: 家屋構造, 住環境, 気候風土

個別会議で閉じこもりに関する課題を検討した事例の状況(全12事例)

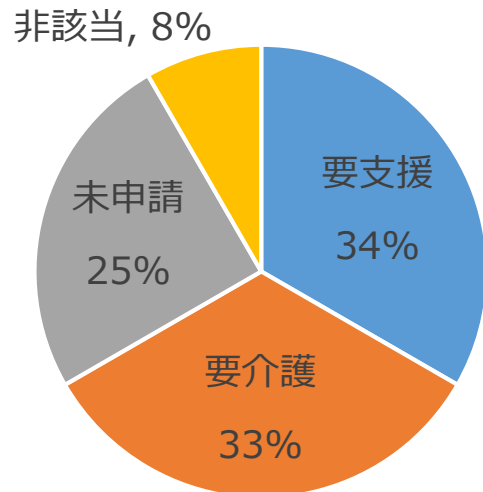
年齢



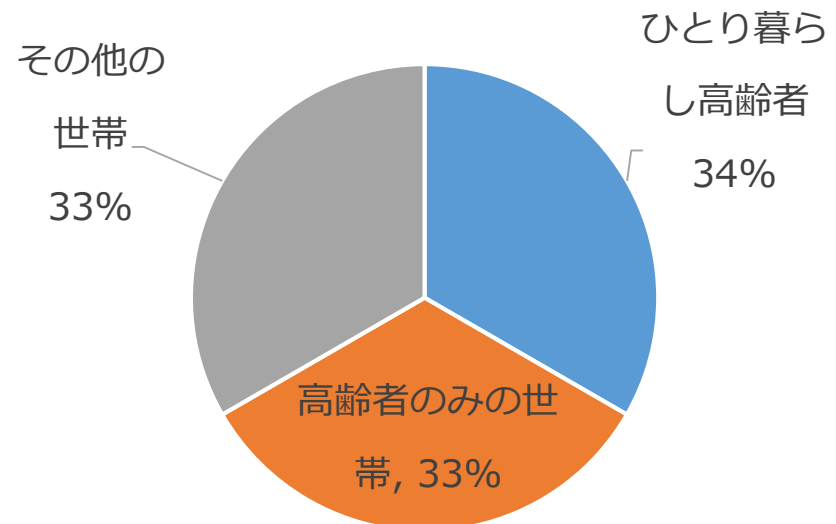
性別



介護度



世帯構成



課題

【移動手段】

- ・身体的要因により一人での外出に不安をもつ高齢者が、閉じこもりがちになっている
- ・徒歩圏内に通うことのできる場所がないため、閉じこもりがちになっている

【行く先】

- ・コロナ禍により、屋内の活動ができなくなったためにサロン活動が休止している

原因・課題解決促進要因

【移動手段】

- ・徒歩圏内に通える場を作る
- ・付き添いや同行支援をしてくれる人がいるとよい
- ・活動している近隣の活動を紹介する

【道路事情】

- ・坂や道幅の狭い道路が多い地区がある
- ・個別性の高い輸送サービスがあるとよい

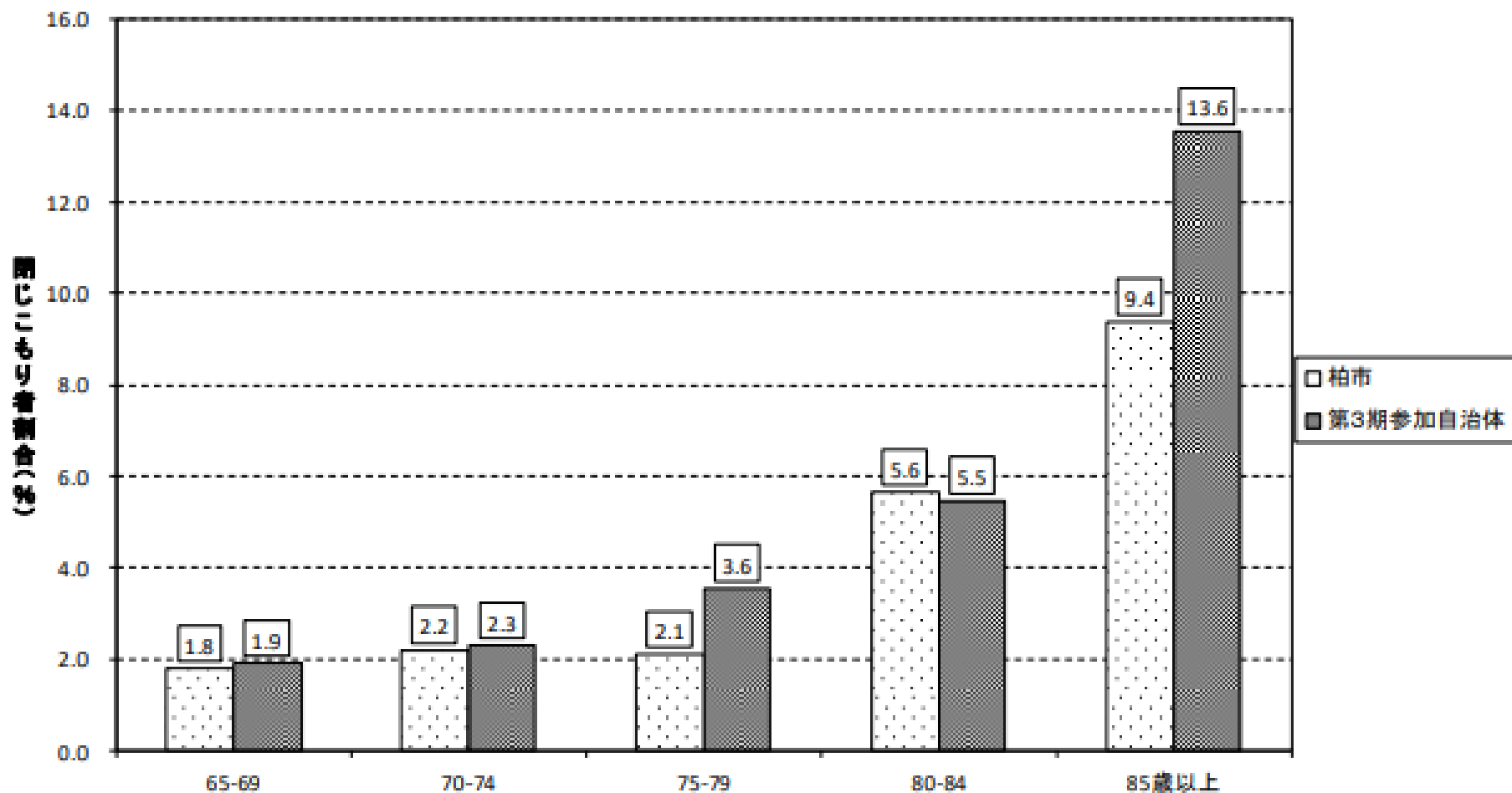
【行く先】

- ・コロナ禍でもできる、屋外での活動やオンラインの活用

【動機付け】

- ・外出のきっかけとなる情報提供が必要
- ・近所の人やサロン参加者からの声かけがあるとよい

データから見た柏市の状況



今後、閉じこもりがちな高齢者が増加する恐れがある。

地域課題

- 閉じこもりがちな高齢者は増加しており、その生活スタイルが続くと心身機能が低下し、寝たきり等の要介護状態になるリスクが非常に高くなる。
- 閉じこもりがちな高齢者が外出するための手段や、行く場所、機会がない。

解決に向けた方向性

- 通いの場の普及啓発
- 地域住民からの声かけ等による、つながりの再構築

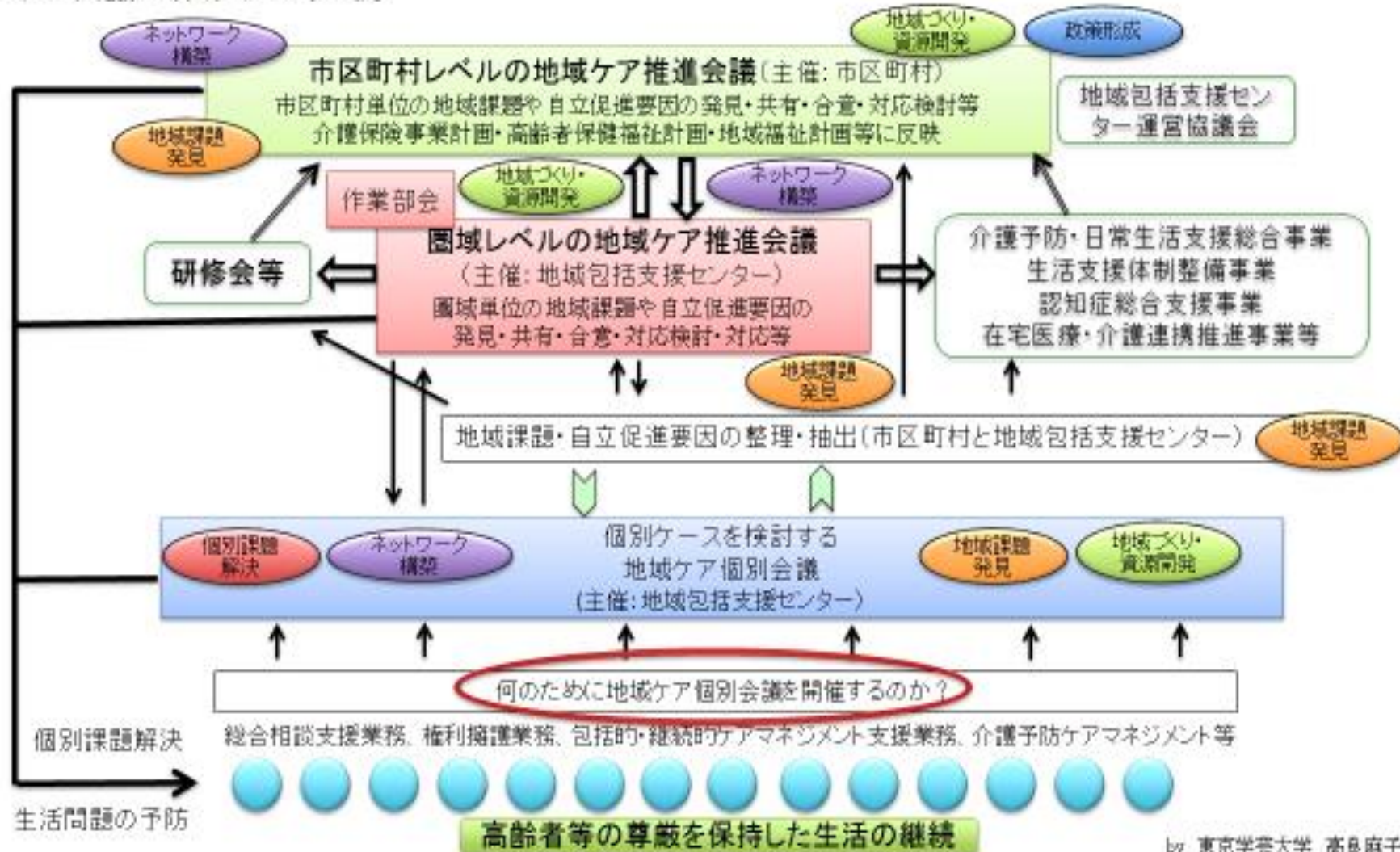
(4) ご助言をいただきたい事項

- 地域で把握している閉じこもりがちな高齢者の実情と課題
- それぞれの立場から、閉じこもりがちな高齢者への支援の提案

【介護保険法第115条の48(会議)】

| | |
|------|--|
| 実施主体 | 市, 地域包括支援センター |
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> ①支援が必要な被保険者への適切な支援の充実を図る ②地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制の検討 |
| 検討事項 | <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者等の健康上及び生活上の課題の解決に資する支援の内容に関すること ②地域における介護の提供に携わる人や関係者の連携強化に関すること ③支援対象高齢者等に共通する課題の把握に関すること ④地域における介護の提供に必要な社会資源の改善および開発に関すること ⑤地域における自立した日常生活の支援のために必要な施策および事業に関すること |
| 構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員, 保健医療及び福祉に関する専門家, 民生委員その他の関係者, 関係機関及び関係団体等 |

地域ケア会議の体系デザイン例



地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、**地域包括ケアシステムの実現に向けた手法**であり、**会議を連動させることで、地域包括ケアシステムの循環を創ることが**できる。